

平成30年6月21日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02243

研究課題名(和文) 昭和10年代における文学の 世界化 をめぐる総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on globalization of literature in the Showa era

研究代表者

松本 和也 (Matsumoto, Katsuya)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：50467198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、世界化 を特徴とする、多彩かつ複雑な昭和10年代における文学活動全般を研究対象とした。多角的・包括的なアプローチによって、昭和10年代文学についての調査・分析・考察を積み重ね、その具体的な様相・問題を明らかにした。その際、世界化 という視座から、文学(者)と国内外の政治や外交、戦争などとの関係を重視し、歴史的な文学研究を展開した。(その成果は、著書1冊・論文26本などを通じて公開した。)

研究成果の概要(英文)：In this research, we studied literature in general (Activity / Phenomena) in various colorful and complicated Showa era featuring <Globalization>. Through multilateral and comprehensive approach by 6 members and 4 research units, we have accumulated investigation, analysis and consideration about literature of the Showa era 10 years and clarified the concrete aspect and problem. In this research, in accordance with the concept of "Globalization", the viewpoints lacking in previous research - the trends of international politics, diplomacy and economy and the exchange of culture, people and things with foreign countries - were incorporated. In addition, literary genres that have not received attention - such as popular literature and colonial literature - were also actively targeted for research. Also, with reference to the research results of adjacent areas, we clarified issues peculiar to the literature field while securing an interdisciplinary viewpoint.

研究分野：日本文学

キーワード：日中戦争 文化工作 翻訳 プロパガンダ ヒューマニズム 谷崎潤一郎 火野葦平 戦争文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 昭和戦前期・昭和10年代の文学(研究)については、「ゼロの文学」(小松伸六「戦争文学の展望」1950)や「非文学的時代」(平野謙『昭和文学史』1963)といった評価さえあるほどに、長らく重要な研究対象とはみなされてこなかった。しかし、近年の1940年代論や総力戦体制論をまつまでもなく、この時期にも文学(活動・現象)を対象として検討すべき課題は多く、しかも、それらの多くは現代と地続きの問題でもある。つまり、今日からみて重要な問題領域の研究が、エア・ポケットとなっているという、研究開始当初の状況があった。

(2) 個別具体的にみていくなれば、作家・作品論に関しては、一定の蓄積はあるが、興味関心は個別の文学者や作品のみに置かれ、それらを横断した安藤宏『自意識の昭和文学』(1994)でも主眼は表現史に置かれていた。また、戦争文学というテーマでは都築久義『戦時体制下の文学者』(1976)、安田武『定本 戦争文学論』(1977)、安永武人『戦時下の作家と作品』(1983)、坪井秀人『戦争の記憶をさかのぼる』(2005)などが重要だが、戦争と文学(者)の関係は明らかにされたものの、逆にその他の同時代要素は見過ごされてしまったきらいがある。文学史では、平野謙『昭和文学史』(1963)から井上ひさし・小森陽一編著『座談会昭和文学史 第1-6巻』(2003-04)まで、時代を俯瞰する試みは繰り返されてきたが、やはり記述の中心は特定の文学者やテーマに置かれていた。

(3) 以上に祖述した通り、研究史上においては、当該時期の作家・作品論や戦争に関わるテーマ論を中心に研究が蓄積されてきた他、文学史記述も行われてきた。その一方で、「世界化」を特徴とする昭和10年代文学のもつ複雑な多面性についていえば、個別の観点からのアプローチが緒についた段階で、当該領域の問題構成に応じて、多角的・包括的に捉えようとする研究は、方法論・実践ともにいまだ提示されていない。

2. 研究の目的

(1) 「世界化」を特徴とする昭和10年代文学の研究は、その基盤的前提となる文学場の具体的な構成要素をおさえた上で、多彩で複雑な文学活動・現象を対象として、虫瞰・鳥瞰を複眼的に兼ね備えた同時代の視座を構築しながら進めていく必要がある。

(2) 本研究では「世界化」というコンセプトに即して、先行研究に欠けていた国際政治・外交・経済の動向、諸外国との文化・人・モノの交流、大衆文学や植民地文学といった周縁化されたジャンルなども積極的に研究対象に組み込んでいく。なお、当該時期に関する隣接領域の研究成果も参照することで、

学際的な視座を担保していく。

その上で、昭和10年代の文学場を具体的な研究対象として、「世界化」していく歴史的な諸条件を視野に入れ、メンバーが重なりながら所属する「メディア・マッピング」、文化工作・対外戦略、文学場の系譜学、テキストの思想、といった4つの観点から4つの研究ユニットを組み、多角的・包括的なアプローチからの研究を進めることとした。そのことによって、文学が果たした役割やその意味を考察し、文学領域に固有の問題を明らかにしていく。

3. 研究の方法

(1) メディア・マッピング: 昭和10年代刊行の雑誌に関して、その目次を通覧するとともに、個々の特徴や各雑誌間の関係性を地図化(マッピング)して俯瞰的に考察する。記事の具体的な調査項目は、「日本文学の自己言及性に関する言表(日本人が自国の文学や文壇、流派を定義している記事)」「日本文学と諸外国の接点に関する言表(日本文学の翻訳や海外宣伝に関する記事、あるいは諸外国における日本文学への評価や日本文学のイメージに関する記事)」「日本文学に関する視覚的表象(日本文学や日本の文壇イメージを画像で表現している記事)」とする。研究のプロセスとしては、最初にユニット・メンバーが主体となって、近年のメディア研究の成果と方法論を検討する。その後、研究メンバー全員が個別で雑誌調査を実施していく。

(2) 文化工作・対外戦略: 昭和10年代に企画、実施された対外文化工作の実態を検証し、当時の対外戦略の内実を多面的に考察する。特に、日本文学の国際化が有する政治性の諸相を明らかにするとともに、日本文学の評価、位置づけに関する研究上の観点を定め、研究基盤を創出する。近年の研究動向もふまえて、新たな研究領域を開拓するものとして、「対欧米、対アジアそれぞれの文化工作に關与した国内外の組織、団体の活動実態」「文学者をはじめとする文化人の対外文化活動、およびそれが反映している諸作品」「国内外出版社から刊行された日本文学・文化に関する翻訳書籍の流通とその受容の実態」を具体的な対象とする。研究方法としては、国内外の各組織団体および文化工作に關与した個々の文化人、各言語の翻訳刊行物を分担して調査し、ユニット・メンバーを中心に当該の問題を整理する。その際、文学による対外文化活動を美術、映画、伝統芸能などの領域と比較検討し、その共通点と相違点を検証することで、「世界化」に関わる文学領域固有の問題を明らかにする。また同時に、近年の政治学、歴史学、社会学などの研究成果や、トランスレーション・スタディーズの方法論を取り入れ、新たな学際領域を実践的に提示していく。

(3)文学場の系譜学：他のユニットと連携しつつ、昭和 10 年代の文学場について、これまで欠けていた、文学の自己言及的な言説における対社会・大衆的な戦略性、世界規模での情報流通が加速するなかでの海外への発信や海外からのまなざし、国際情勢の緊迫化、それに続く戦争の本格化のなかでの国家権力や経済との関係性、といった観点を積極的に取り入れることで旧来の文学史記述を相対化し、新たな歴史記述を構築する。これまで取りこぼされてきた純文芸の作品、芥川賞・直木賞の位置づけや受賞作家・作品、さらには大衆文学や植民地作家による作品など、従来周縁化されてきた作品も広く研究対象とする。書籍・雑誌・新聞メディアにおける文学言説について、それらを取り巻く同時代の文化・経済・政治などの諸言説との接線において捉え直していくことが具体的な作業となる。その上で、作品の流通や受容、作家表象の変動や配置、人脈や雑誌を軸とした国内外の世界同時的なネットワークなど、人とモノ、メディアと資本、地域と国際社会が重層的に交錯する場の記述を目指す。また、狭義の文学場を相対化し、メタレベルからその社会的位置を浮き彫りにするため、隣接諸ジャンルの最新の知見も補助線として積極的に取り入れ、平野謙『昭和文学史』(1963)をはじめ、旧来提出されてきた昭和 10 年代に関する文学史記述に潜む功罪についても考察する。

(4)テキストの思想：以上(1)～(3)の成果に学びつつ、対外戦略上の必要やプロパガンダ等の政治的要請を含む複数の力線からテキストの葛藤・抗争を読み出す近年の文学批評の問題提起を深いところで受けとめ、それぞれの立場での「世界化」を意識せざるを得なかった昭和 10 年代の日本語による文学的・思想的テキストの抱えた困難と問題性について、新たな立場から検討を加える。研究の実施にあたっては、関連する個人作家研究会や隣接領域の研究者との接続と対話、東アジア各国・各地域の文学・文化を対象とする研究者との積極的な協働、具体的な資料にもとづく検閲や言論統制に関わる法制度的な検討、に特に留意する。対象とするテキストは、川端康成、小林秀雄、菊池寛、太宰治、蓮田善明、丸山真男、張赫宙、張文環らの近代論・伝統論・他者論などに関わる著作とする。分析にあたっては、各メンバーが培ってきた研究上のネットワークを活用することで、学際的かつ多角的な視野を確保することとする。

(5)総合：最後に、上記研究を通じて得られた知見を総合し、論文や学会発表を通じて学会および社会へと発信していく。さらに昭和 10 年代文学(研究)に関する残された課題を確認すると同時に、新たな問題領域を開拓しながら、研究展望を提示する。

4. 研究成果

(1)本研究では、「世界化」を特徴とする、多彩かつ複雑な昭和 10 年代における文学活動全般を研究対象とした。その上で、多角的・包括的なアプローチによって、昭和 10 年代文学についての調査・分析・考察を積み重ね、その具体的な様相・問題を明らかにしてきた。その際、「世界化」という視座から、文学(者)と国内外の政治や外交、戦争などとの関係を重視し、歴史的な文学研究を展開した。以下、研究成果を 4 つの柱からまとめておく。

(2)第 1 に、メディア・マッピングおよび文学場の系譜学ユニットを中心に、昭和 10 年代文学について、同時代の視座からの調査・検討によって、言説の具体的かつ歴史的な動向を明らかにした。さらに、同時代言説に関わる国内外の出来事、文学者の社会的位置の変動などについて、戦局の進行を関数とした様相を明らかにした。個別のテーマとしては、ヒューマニズムという理念が、さまざまな含意を孕みながら、昭和 10 年代を通じて「世界化」を体現していった様相を明らかにし、新たな問題領域を開拓した。また、昭和 10 年代において、日本国内での作家・作品の生成・受容、文学場における評価軸の変動、などがどのように展開されていったのかについても、時局の推移を関数としながら実証的に明らかにした。

(3)第 2 として、戦争文学をはじめとした、戦時下の小説や映画など、文化テキスト研究の進展が挙げられる。火野葦平、保田與重郎、山本有三、太宰治、上田廣、岡本かの子など、個別のテキストを対象としながら、テキストという結節点に関わったさまざまな条件、具体的な表現や修辞、掲載媒体、受容の場やその様相、批評性などについて、歴史的な解釈・意味づけを行った。

(4)第 3 として、「世界化」の地理的な具体化として、拡張していく日本(戦場・外地)について、国内外の文学(者)がどのように関わっていったかについて、朝鮮半島、中国、シンガポールなどを事例として、同時代言説に即した調査・分析を行った。その際、文学者のみならず、新聞記者や編集者など、こうした問題領域に関わった書き手に広く注目し、文学固有の問題性を明らかにした。また、文化的な「翻訳」として展開された、日本文学の国外への紹介や日本語テキストに折りたたまれた国際性などについても、谷崎潤一郎の事例などを中心に検討を進め、新たな問題領域を開拓した。

(5)以上を総合しながら、共同研究による研修・資料調査・研究会にくわえ、学会や他の科研費プロジェクトとの共催研究会などを通じて、知見を深めながら議論を練り上げ、

学会発表や論文文化を通じて研究成果を社会へと還元した。また、昭和 10 年代文学という問題領域を 世界化 という観点からアップデートし、問題領域の重要性を示しながら、ここから展開しうる新たな問題領域を、積み残された課題とともに検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 26 件)

松本 和也、研究対象 / 問題領域としての昭和一〇年代文学、阪大近代文学研究、査読無、16 号、2018、20-32

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/68147/hkbk_16_020.pdf

松本 和也、文学(者)による文化工作・建設戦 上田廣「黄塵」の意義、永野善子編『帝国とナショナリズムの言説空間 国際比較と相互連携』(御茶の水書房) 査読無、(巻号なし)、2018、3-33

松本 和也、マレー・シンガポール攻略作戦をめぐる報道文 昭和 17 年文学場一面、文教大学国際学部紀要、査読無、28 巻 2 号、2018、85-102

<http://id.nii.ac.jp/1351/00006813/>

松本 和也、岸田國土の大政翼賛会文化部長就任をめぐる言説、立教大学日本文学、査読無、119 号、2018、64-77

<http://doi.org/10.14992/00015759>

山本 亮介、馬海松 異郷の全身編集者、和田博文・徐静波・兪在真・横路啓子編『異郷としての日本 東アジアの留学生がみた近代』(勉誠出版) 査読無、(巻号なし)、2017、298-311

若松 伸哉、「虚構の春」が紡ぐ個性と類型、太宰治研究、査読無、25 号、2017、60-70

松本 和也、『新風』をめぐる言説 / 軌跡、国語と国文学、査読有、94 巻 5 号、2017、96-100

平 浩一、「ヒューマニズム」の背後 一九三八年前後の山本有三とその周辺、国文学論輯、査読無、38 号、2017、45-60

平 浩一、横断する作家像 山本有三像の流通とその行方、昭和文学研究、査読有、74 集、2017、57-71

五味淵 典嗣、日中戦争期 大陸映画工作 への一視点 大妻女子大学図書館蔵『中支派遣軍報道部映画関係調査資料』を手がかりに、大妻国文、査読無、48 号、2017、126-146

<http://id.nii.ac.jp/1114/00006465/>

若松 伸哉、スペイン内戦と日中戦争にあらわれたヒューマニズム、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編) 査読無、8 号、2017、33-42

<http://doi.org/10.15088/00003159>

西村 将洋、帝国 谷崎潤一郎と国際感覚、五味淵典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』(翰林書房) 査読無、(巻号な

し)、2016、230-235

山本 亮介、「国際的」作家の陰影 文芸復興期谷崎の一面、五味淵典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』(翰林書房) 査読無、(巻号なし)、2016、110-116

西村 将洋、アフリカからアジアをみる 日中戦争期の保田與重郎とマルクス主義民族論、昭和文学研究、査読有、74 号、2017、42-56

松本 和也、昭和一〇年代における文芸時評・序説、ゲストハウス、査読無、8 号、2016、13-22

<http://hdl.handle.net/10487/14133>

五味淵 典嗣、敗北への想像力 保田與重郎『南山踏雲録』を読む、藝文研究、査読無、109 号、2015、165-180

〔学会発表〕(計 6 件)

松本 和也、「文学非力説」論議の位置・意義・圏域、日本近代文学学会秋季大会、2017

若松 伸哉、日本における政治と文学 文学者にとってのスペイン内戦・日中戦争、愛知県立大学「日本スペイン比較人文社会科学シンポジウム」、2016

五味淵 典嗣、戦火の中のロマンス 表象としての「李香蘭」、日本近代文学会東海支部・JSPS 科研費「昭和 10 年代における文学の 世界化 をめぐる総合的研究」共催シンポジウム「昭和 10 年代文学場と 外地」、2016

〔図書〕(計 1 件)

松本 和也、神奈川大学出版会、日中戦争開戦後の文学場 報告 / 芸術 / 戦場、2018、全 398 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 和也 (MATSUMOTO, Katsuya)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号: 5 0 4 6 7 1 9 8

(2) 研究分担者

西村 将洋 (NISHIMURA, Masahiro)

西南学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号: 7 0 4 5 4 9 2 3

山本 亮介 (YAMAMOTO, Ryosuke)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号: 0 0 3 3 9 6 4 9

若松 伸哉 (WAKAMATSU, Shinya)

愛知県立大学・日本文化学部・准教授

研究者番号: 4 0 5 8 3 8 0 2

五味淵 典嗣 (GOMIBUCHI, Noritsugu)

大妻女子大学・文学部・准教授

研究者番号: 1 0 4 3 3 7 0 7

平 浩一 (HIRA, Kouichi)
国土館大学・文学部・准教授
研究者番号：00583543